

「農山漁村でのいなか体験について(キッズ・モニターアンケート)」実施報告

三重県では、子どもの力強い成長を支えるとともに、過疎化と高齢化が進む農山村や漁村を活性化するため、子どもの農山漁村での体験活動を推進しています。

そこで、地域支援課では、子ども達が農山漁村(いなか)へ行ったことがあるか、どのようなイメージを持っているかなどをアンケート調査し、今後の取組展開につなげていきたいと考えています。

アンケートの概要

アンケート実施期間

平成24年8月6日(月)から平成24年8月21日(火)まで

意見募集の結果

対象者数 384
回答者数 229
回答率 59.6%

回答者属性

性別 【男性】 92名 (40.2%) 【女性】 137名 (59.8%)

地域別

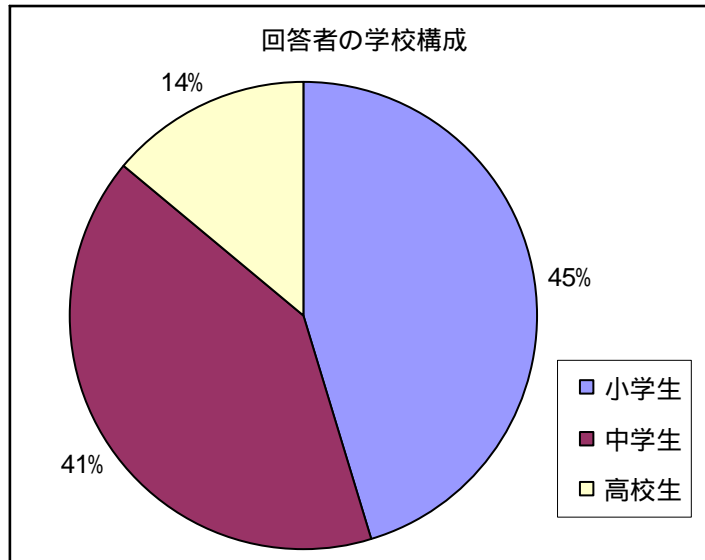
桑名・員弁地域	四日市地域	鈴鹿・亀山地域	津地域	松阪地域
26人	41人	30人	47人	33人
11.4%	17.9%	13.1%	20.5%	14.4%

南勢志摩地域	伊賀地域	尾鷲地域	熊野地域
27人	19人	5人	1人
11.8%	8.3%	2.2%	0.4%

【設問1】あなたの年代について

回答者の学校構成を尋ねました。

小学生が45%と最も多く、次いで中学生41%、高校生は14%と少し低い構成になっています。

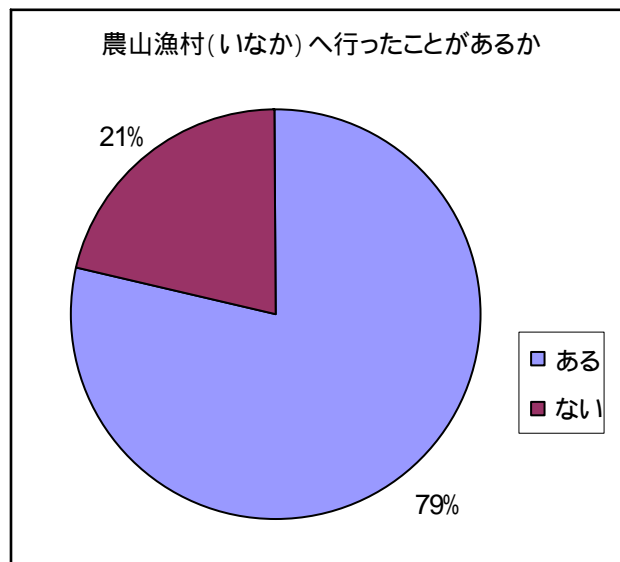


【設問2】農山漁村(いなか)へ行った経験

全員に対して、農山漁村(農村、漁村、山村などの「いなか」)へ行ったことがあるかを尋ねました。

約8割の子どもが、農山漁村へ行った経験を持っていました。なお、今住んでいるところが農山漁村である場合も、「あり」の回答をすることとしています。

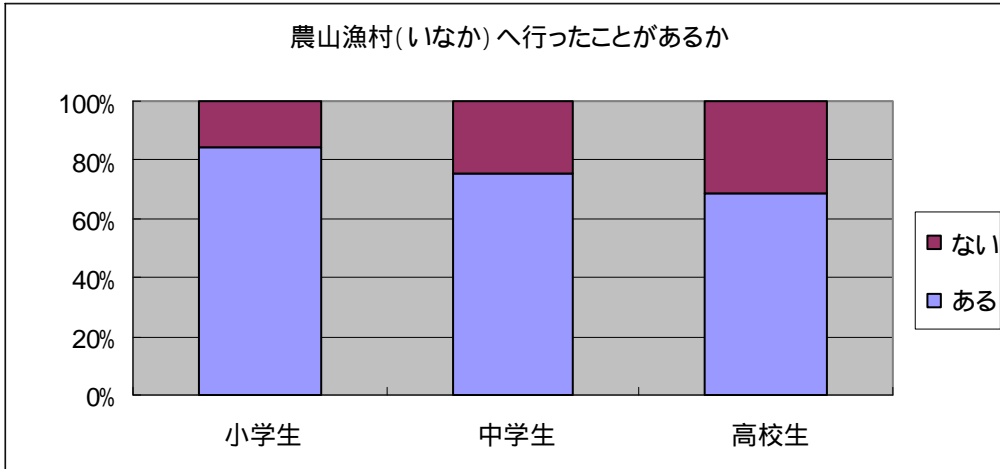
約2割の子どもが、農山漁村へ行った経験がないという結果は予想していたものより高い値です。キャンプや合宿なども含めて、ほとんどすべての子どもが、農山漁村に行った経験を持っていると考えていたからです。



次に、これを学校別に分析したのが次のグラフです。

傾向として、年齢が高くなるにつれて、農山漁村へ行った経験のない割合が高くなっています。

小学生の頃は、家族でのキャンプや帰省などで農山漁村へ行く機会が多いですが、年齢が高くなると、そういう機会が減ることが一因ではないかと考えられます。

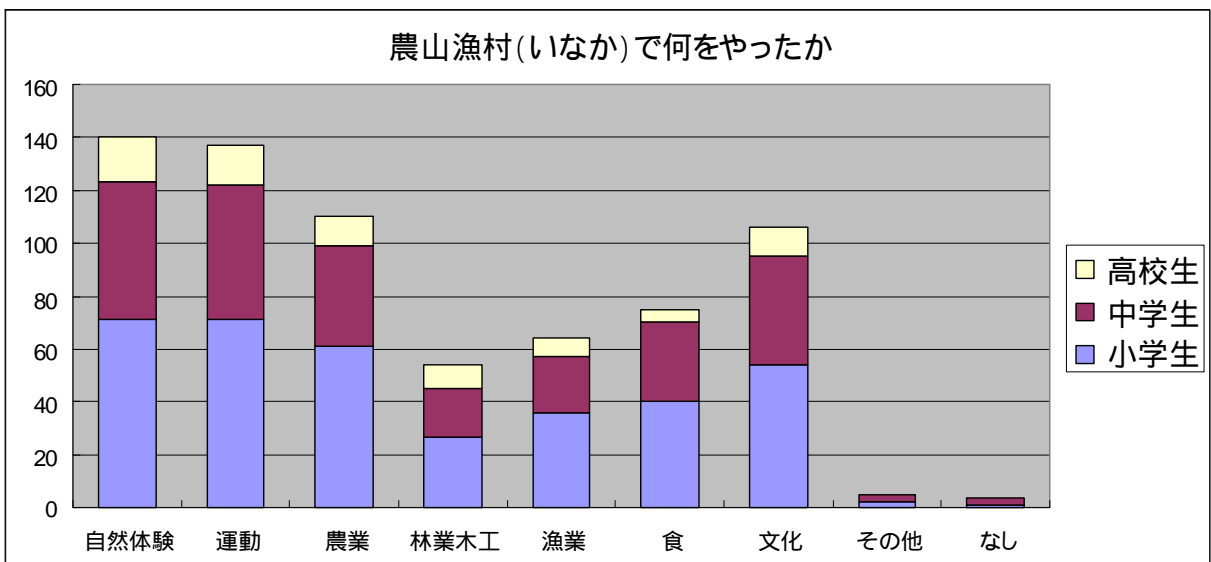


【設問3】農山漁村(いなか)での体験内容

設問2で「行ったことがある」と回答した子どもに対して、農山漁村で何をしたかを複数回答可で回答してもらいました。選択肢は次のとおりです。

- 自然体験（キャンプ、昆虫観察、星空観察など）
- 運動・スポーツ体験（海・川で遊ぶ、野山の探検、山登りなど）
- 農業体験（イモほり、みかん狩り、野菜収穫など）
- 林業・木工・工芸体験（まき割り、木を切る、草木染めなど）
- 漁業体験（釣り、ひもの作りなど）
- 食の体験（料理作りなど）
- 文化体験（祭り・ぼんおどり参加、地区の行事参加など）
- その他の体験（内容記述 ）
- 何もしなかった

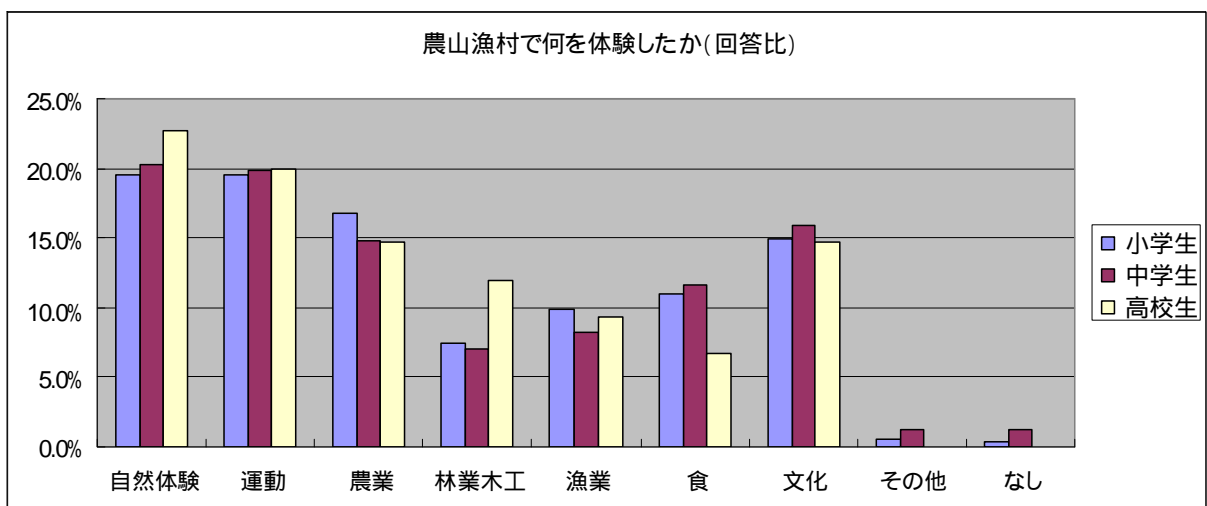
結果は、次のとおりです。併せて回答における学校別でも分析しています。



農山漁村での体験の傾向としては、小学生、中学生、高校生で大きな差がないことが判ります。

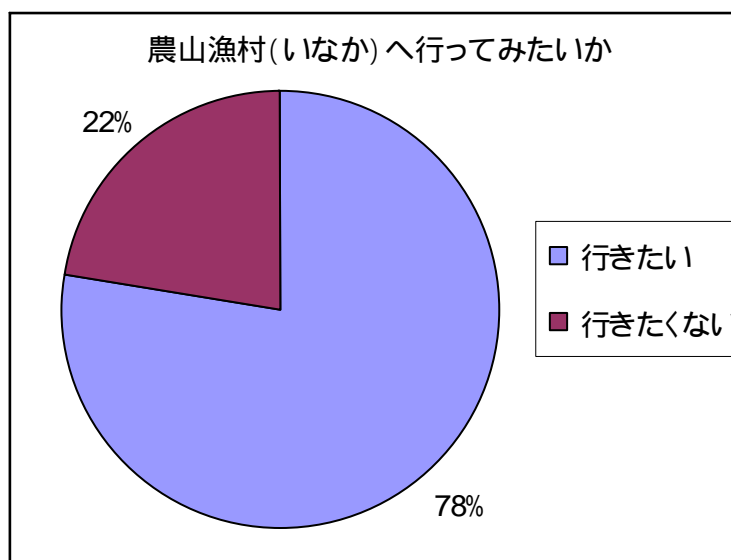
少し細かく分析してみたのが次のグラフです。小学生では農業体験の比率が他と比べて少し高くなっています。これは学校の授業で行う農業体験などが影響していると考えられます。

また、高校生では、自然体験、林業・木工・工芸体験の回答比率が高く、食の体験が低いという傾向がありました。比較的危険な作業が多い林業・木工・工芸体験で高校生が多いのは、理解できる結果です。



【設問4】農山漁村(いなか)へ行ってみたいか

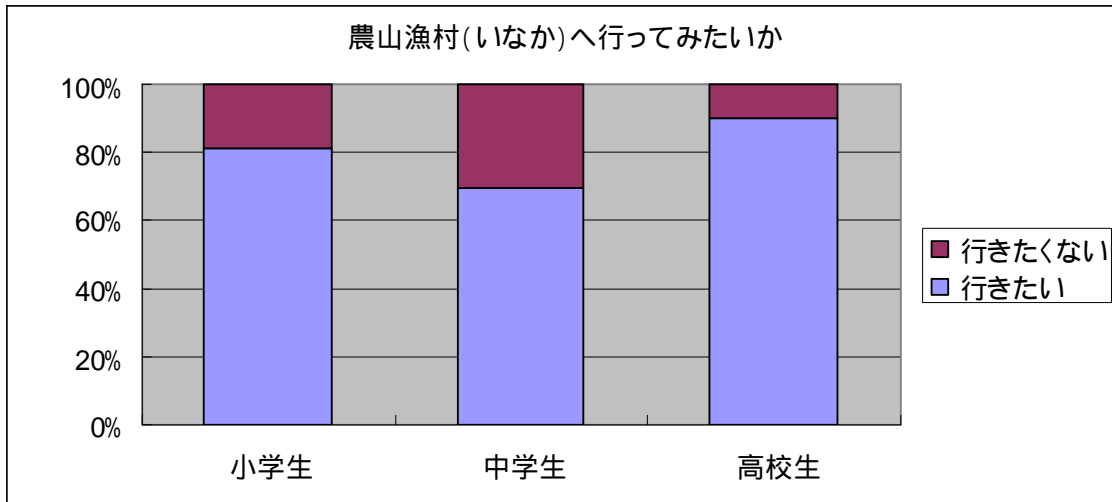
では、設問2で、農山漁村へ行った経験がない子どもは、今後、行ってみたいと思っているのでしょうか。尋ねてみました。



結果は約8割の子どもが「行ってみたい」と回答しています。

次に、この回答についても学校別に分析してみたのが次のグラフです。

結果は、予想に反して高校生が一番「行きたい」という回答の比率が高くなりました。



【設問5】農山漁村(いなか)のイメージ

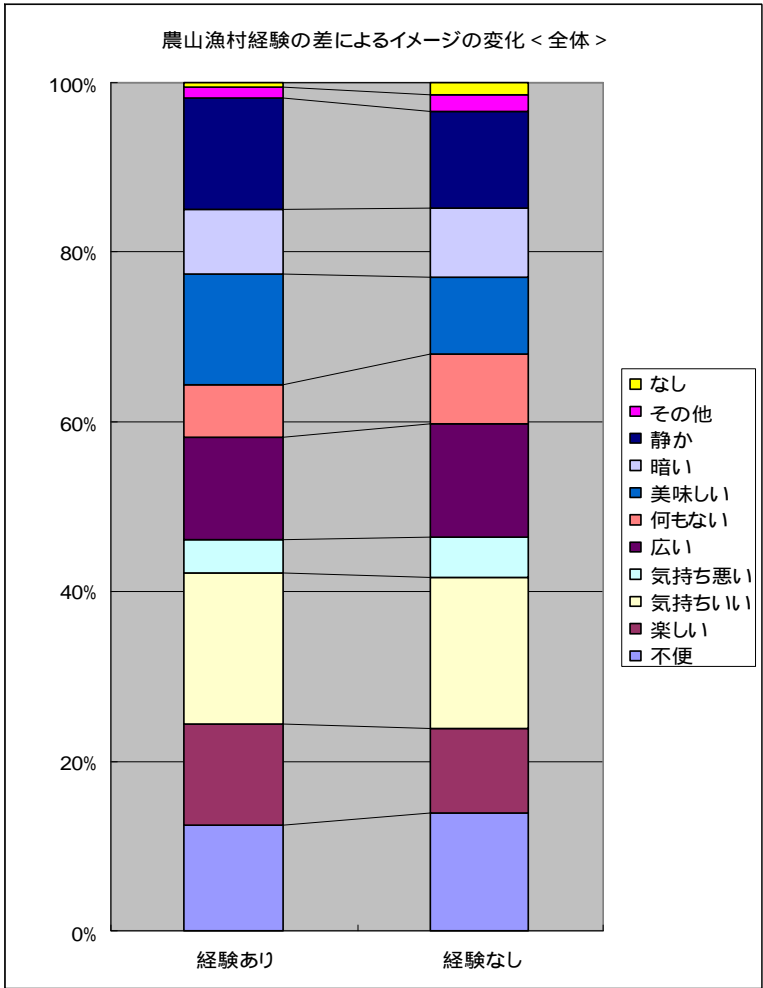
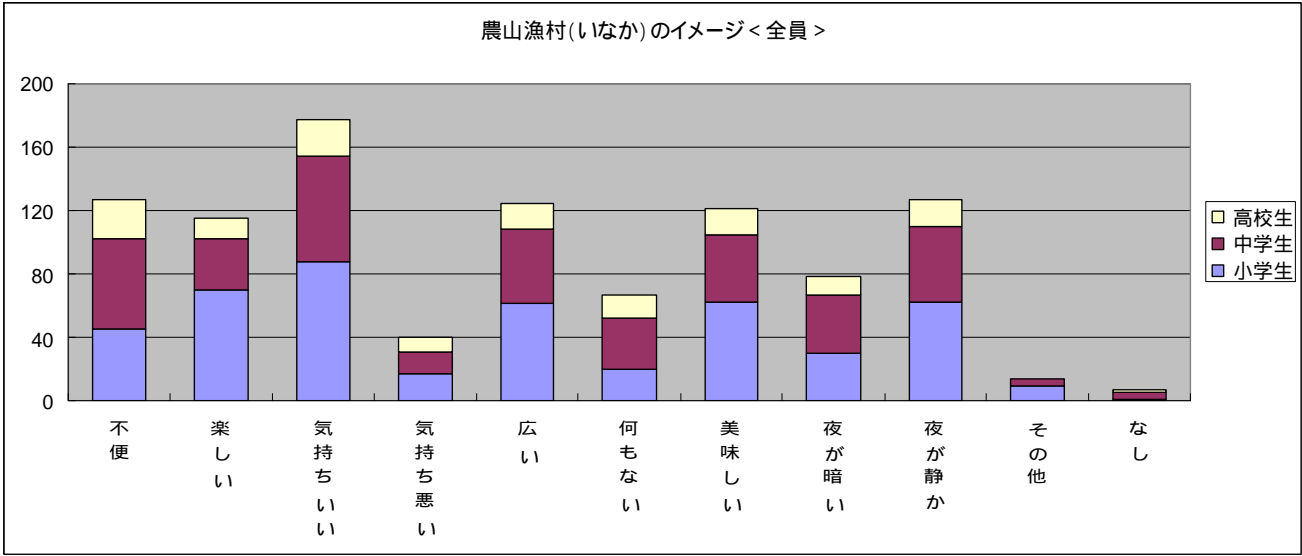
子どもは農山漁村(いなか)どんなイメージを持っているか。今回のアンケートでもっともポイントとなる設問です。選択肢はプラスイメージ、マイナスイメージを含めた次のとおりとし、複数回答可で回答してもらいました。

- 不便(店が少ない、電車・バスが少ないなど)
- 楽しい(いろいろな体験が出来る)
- 気持ち良い(自然が多い、星空がきれい、水や空気がきれいなど)
- 気持ち悪い(虫が多い、 が汚いなど)
- 広い(遊び場が多い、遠くの景色が見えるなど)
- 何もない、寂しい(建物・ビルが少ない、歩いている人が少ないなど)
- 食べ物がおいしい(ご飯、野菜がおいしいなど)
- 夜が暗い(ネオンや街灯、明かりが少ないなど)
- 夜が静か(やかましい音がないなど)
- その他のイメージ()
- 特にイメージがない

結果は、次の通りです。

「不便」を押さえて「気持ちいい」が、最も多くの回答数177人を得ました。そして2位は「不便」「夜が静か」が同数で127人。次に「広い」124人、「おいしい」121人、「楽しい」115人という順でした。

いなかに対して良いイメージを持っていることがわかりました。

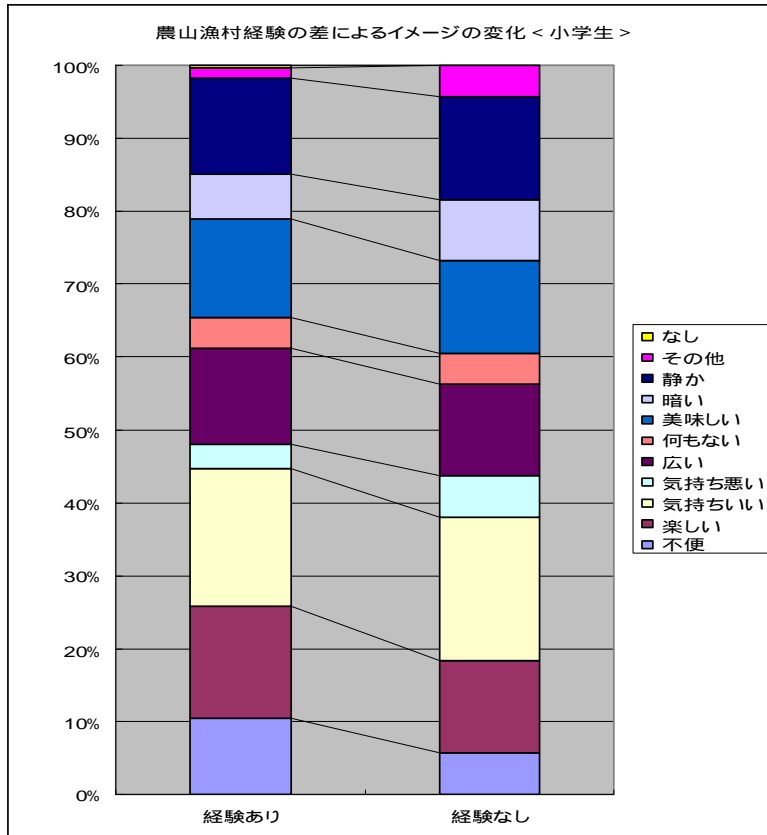


では、農山漁村(いなか)に行ったことがある子どもと、そうでない子どもでイメージに差があるのでしょうか。分析したのが左のグラフです。

「食べ物がおいしい」というイメージが、農山漁村へ行くことでポイントが増えることがわかります。

また、一般的な傾向として、「不便」「気持ち悪い」「何もなし」といったマイナスイメージの項目はポイントが減り、「楽しい」「気持ちいい」「夜が静か」といったプラスイメージの項目はポイントが増えています。

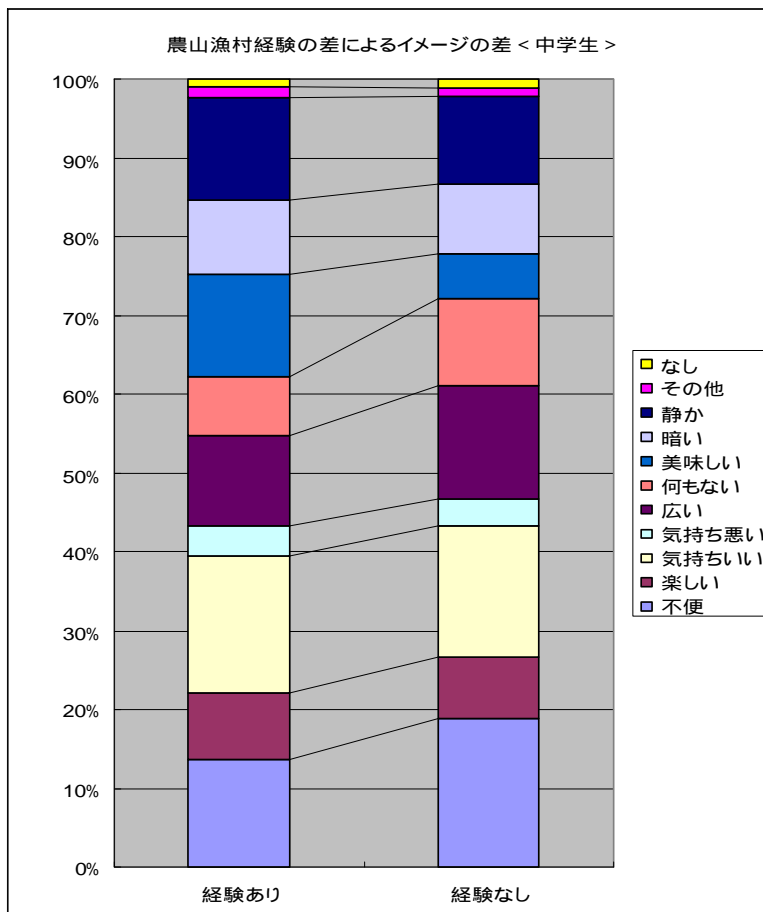
さらに、学校別に詳しく見てみましょう。



まず小学生です。

ここでは、「不便」というイメージが、農山漁村へ行くことでポイントが増えることがわかります。子どもの素直な感想でしょう。

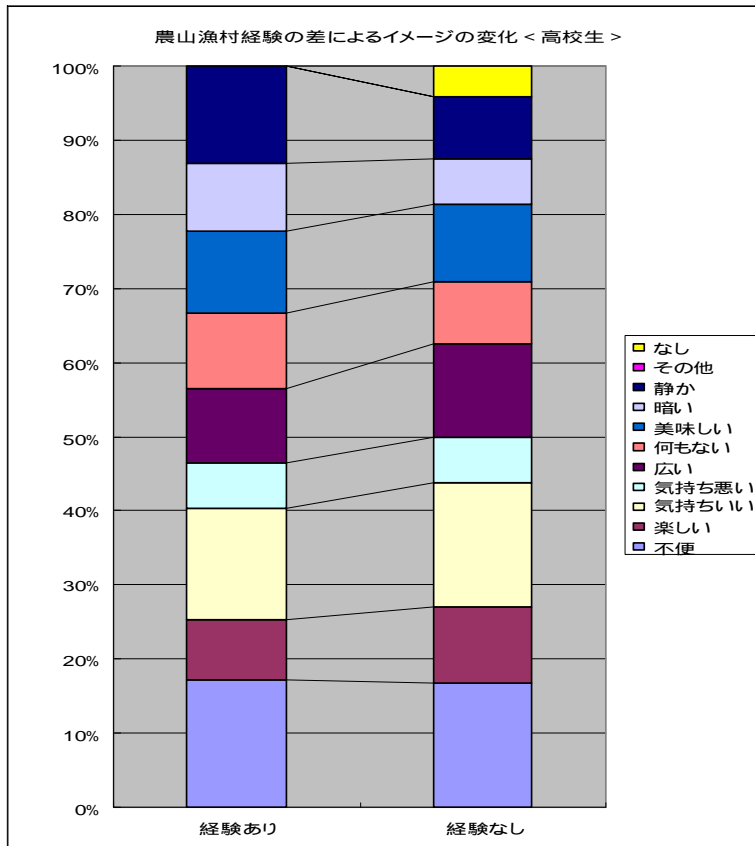
ただ、ここでも「気持ち悪い」「夜が暗い」といったマイナスイメージの項目はポイントが減り、「楽しい」「おいしい」といったプラスイメージの項目はポイントが増える傾向は見られません。



中学生で、ポイントの増減がもっとも大きいのは「おいしい」のイメージです。倍以上増加しています。

また小学生ではポイントが増えた「不便」というイメージが、中学生では逆に減る結果になりました。

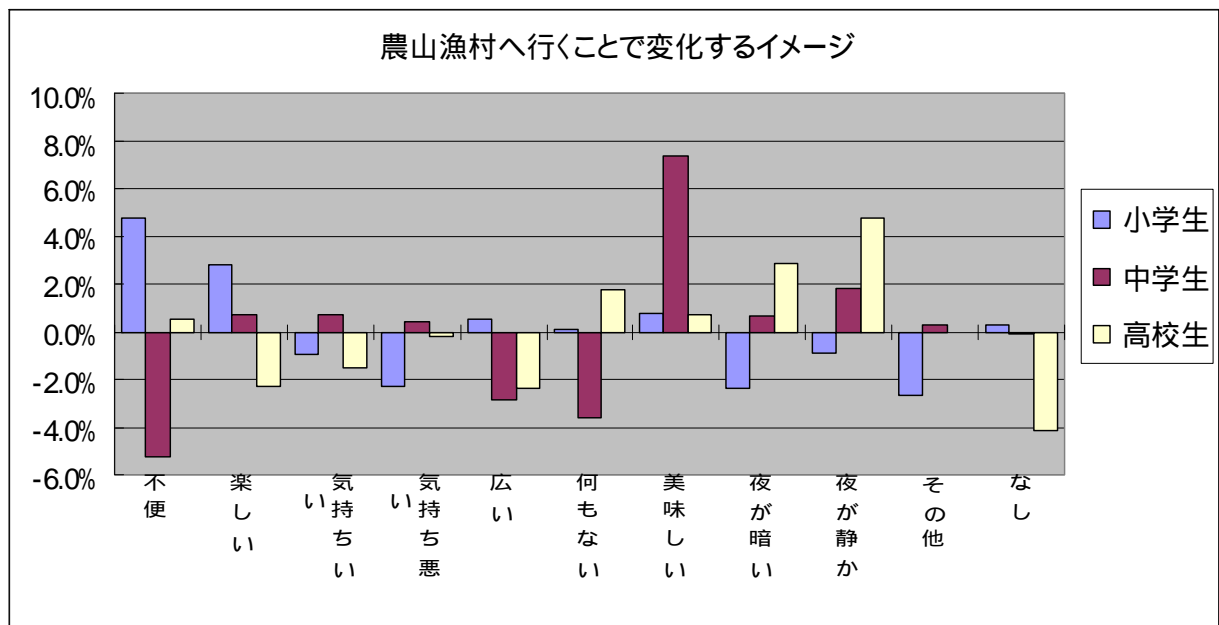
他には、「広い」「何も無い」というイメージのポイントが減っています。



高校生では、今までと違う変化になります。「夜が静か」のイメージが、農山漁村へ行った経験を持つ子どもでは大きく増加しています。

これまで増減があった「不便」については変化無し。ポイントが増えることが多かった「楽しい」「気持ちいい」といった項目が逆に減り、「何も無い」「夜が暗い」という項目が増える結果になっています。

これらのイメージ変化値のみを抜き出したのが、下のグラフです。農山漁村に行く前（未経験）と後（経験）で、回答数が増えるとプラス方向にグラフが伸びます。



年代が高くなるほど農山漁村へ行くことで、「夜が暗い」「夜が静か」というイメージが強くなる傾向があります。逆に、「楽しい」というイメージは弱くなる傾向があります。

イメージが強くなるということは、行ってみて初めてそう思う子どもが多いということで、子どもは、農山漁村の夜のイメージをあまり持っていないと考えられます。そして、新たな発見と感じる子どもが多いのだと思われます。

また、イメージが弱くなるということは、思ったほどではなかったと感じる子どもが多い、イメージが先行している結果ではないかと考えられます。

【設問6】農山漁村（いなか）での体験希望

全員に対して、農山漁村でやってみたい体験の内容を尋ねました。選択肢は【設問3】と基本的に同じ以下の内容で、複数選択可で回答してもらいました。

自然体験（キャンプ、昆虫観察、星空観察など）

運動・スポーツ体験（海・川で遊ぶ、野山の探検、山登りなど）

農業体験（イモほり、みかん狩り、野菜収穫など）

林業・木工・工芸体験（まき割り、木を切る、草木染めなど）

漁業体験（釣り、ひもの作りなど）

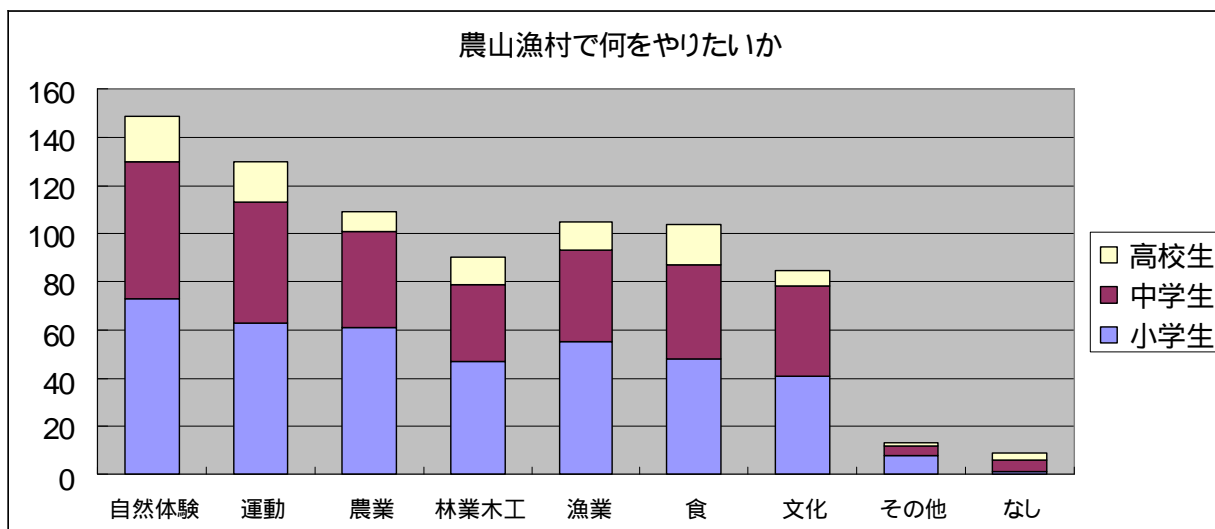
食の体験（料理作りなど）

文化体験（祭り・ぼんおどり参加、地区の行事参加など）

その他の体験（内容記述）

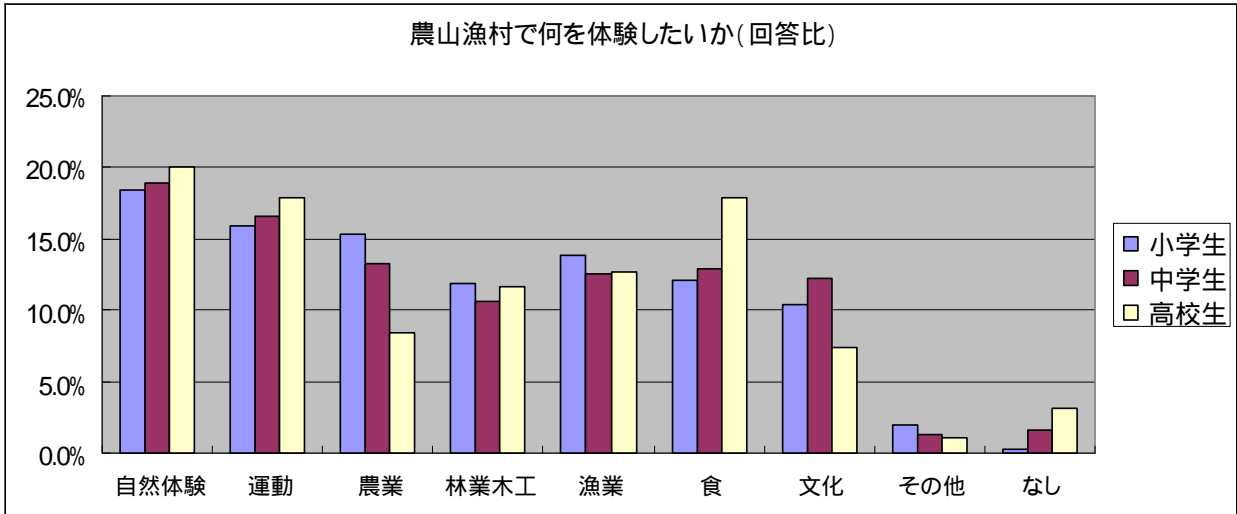
何もしたくない

結果は以下のグラフのとおりです。



自然体験をしてみたいという回答が最も多いという結果でした。

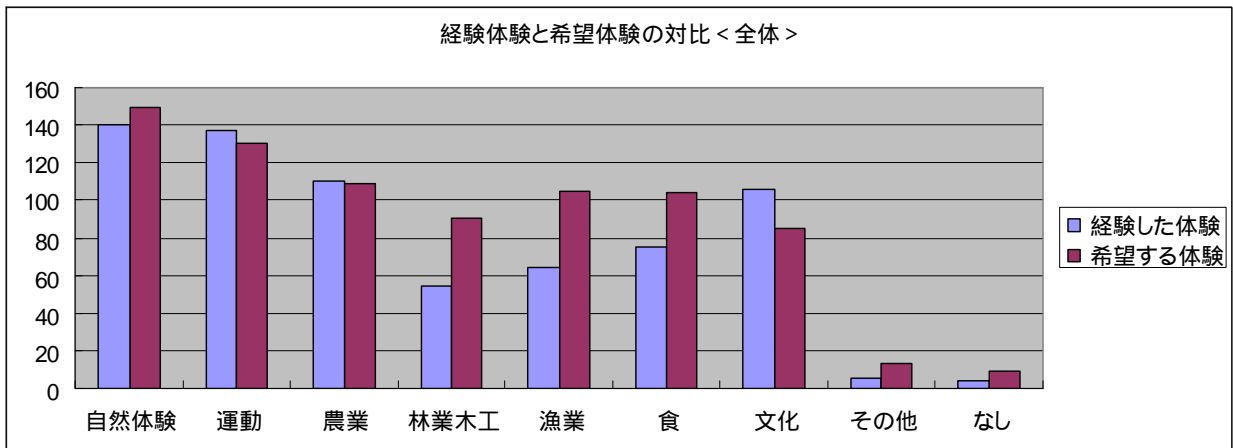
では、次に【設問3】と同じように、学校別の回答傾向を対比してみたいと思います。



小学生と中学生は、ほぼ同じような傾向があるのですが、高校生はいくつかの体験で差が出ています。

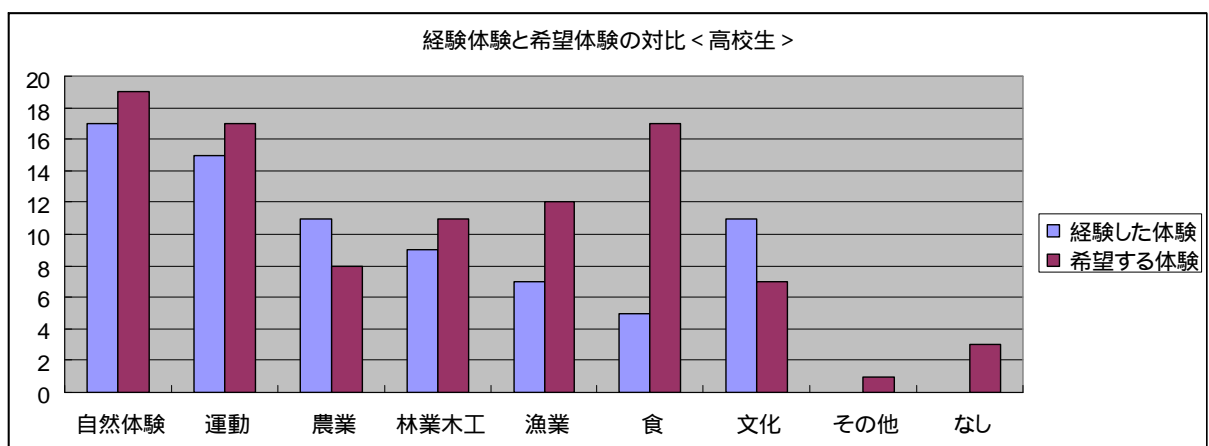
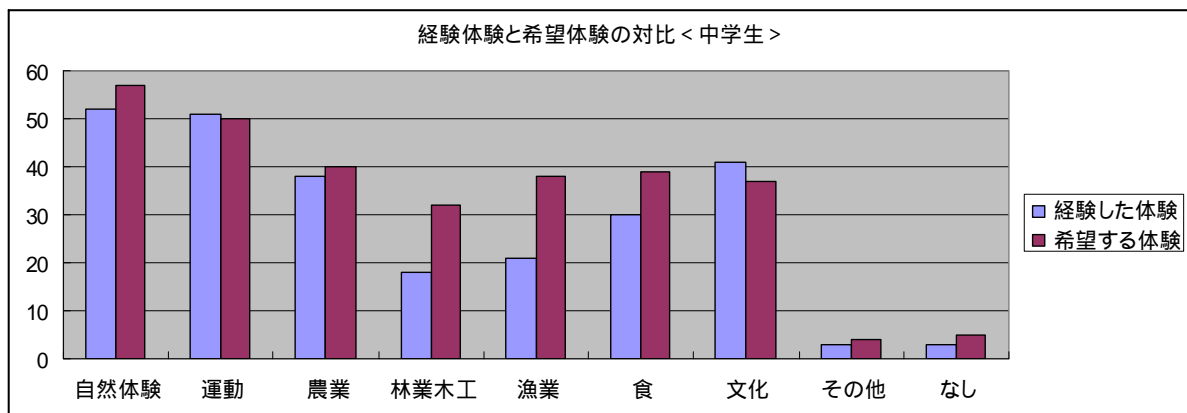
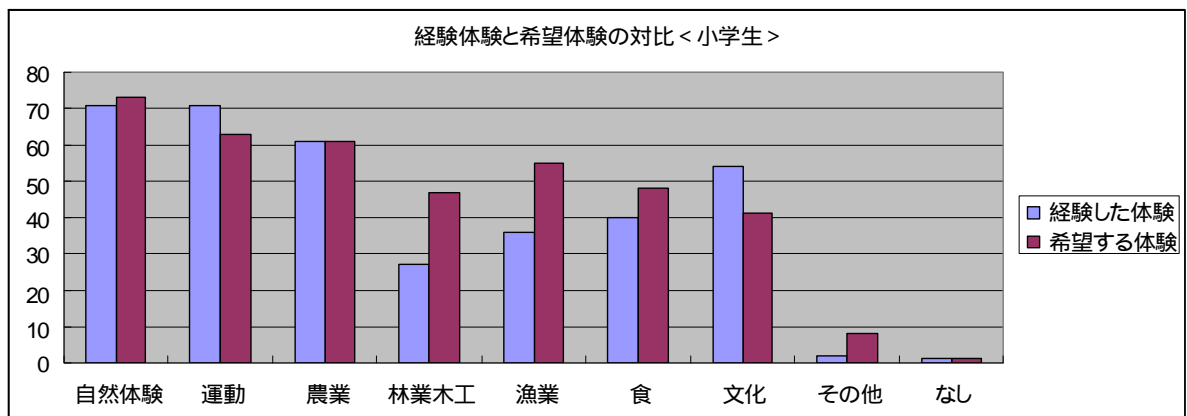
高校生は、小学生や中学生と比べて、「農業体験」「文化体験」を希望する比率が少なく、逆に「食の体験」を希望する比率が高いです。「農業体験」は、年齢が高くなるほど、希望する比率が下がる傾向があります。

さて、【設問3】で回答してもらった経験した体験内容と、【設問6】で回答してもらった希望する体験内容には差があるかをグラフ化してみました。



「自然体験」「運動・スポーツ体験」「農業体験」では、あまり差がありませんでしたが、「林業・木工・工芸体験」「漁業体験」「食の体験」では、体験したいという回答が、大きく上回る結果となりました。

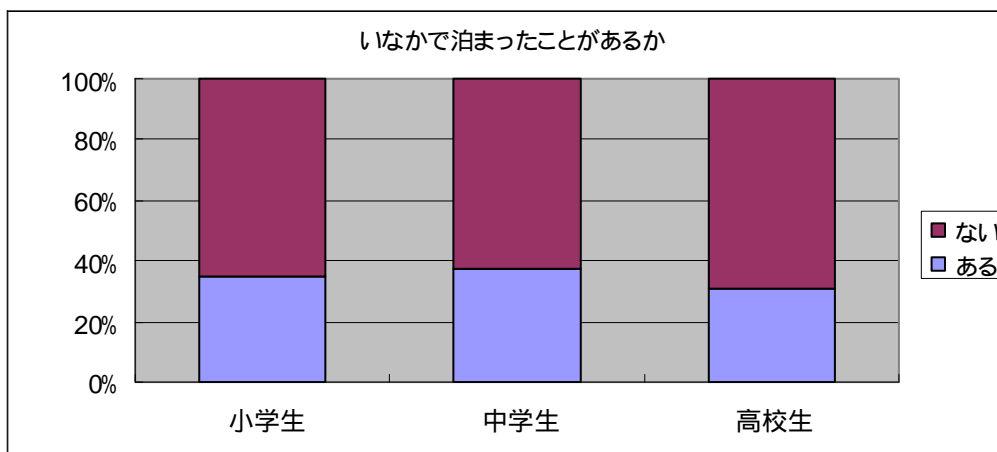
では、これを学年別に見てみました。小学生、中学生は、全体とほぼ同じ傾向を示しましたが、高校生だけ少し違った結果となりました。



高校生でも基本の傾向としては同じなのですが、「食の体験」だけ突出して希望が高いことがわかります。経験者数が少ないのも要因かもしれませんが、倍以上の数の希望者がいます。回答全体から見た回答傾向も、「食の体験」が高かったですし、結果として、高校生は「食の体験」をしたがっているということが判りました。

【設問7】いなかで泊まった経験

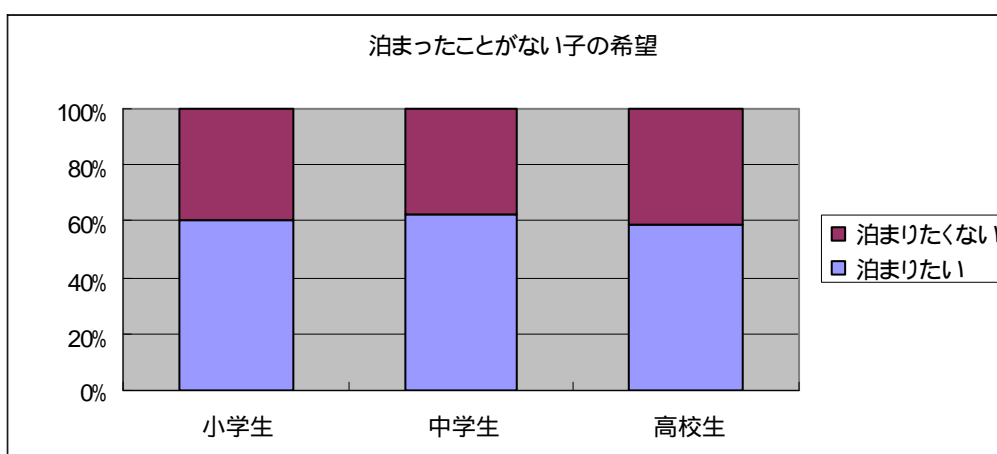
次に、農山漁村へ行った際に、農家や漁師、林業家の家に泊まったことがあるかを尋ねました。なお、自宅が農家や漁師、林業家の場合も、「あり」で回答しています。



結果は、35%前後の子どもが「泊まったことがある」という回答でした。興味深いことに、この比率は、学校別に見ても大きく差がありません。

【設問7】いなかで泊まってみたいか

最後に、【設問6】で「泊まったことがない」という子どもを対象に、農家や漁師、林業家の家に泊まってみたいかを尋ねました。



結果は、これも興味深いことに、全ての学校別で見ても、ほぼ60%の子どもが「泊まりたい」という回答でした。

高校生でも6割が「泊まってみたい」と考えているというのは新たな発見でした。

以上のアンケートの結果は、今後の子どもの農山漁村体験の環境整備や取組推進をしていくうえで参考資料として活かしていきたいと考えています。
キッズ・モニターのみなさん、ありがとうございました。